

優秀賞（臨床工学技士部門） 樽井克典

目標としている臨床工学技士像

臨床工学技士とは、医師の指示の下に、せいめいいじかんりそうち生命維持管理装置の操作及び保守点検を行う事を業とする医療機器の専門家である。また、臨床工学技士は他職種と連携し、常に患者の状態を把握し、チーム医療の一員として携わつていかなければならない。以前、私は内科医師よりまんせいしんふぜん慢性心不全で入院中の高齢の女性患者に対し、ようあつこきゅうりようほう陽圧呼吸療法を指導するよう指示を受けた。患者は全盲の夫と二人暮らしであり、「最後まで夫の世話をしたい」と話され、夫と自宅で生活することを望んでいたが、何度も入退院を繰り返している状態であった。

当初私は、患者が高齢であることから、自宅で治療を継続してもらうのは困難であると考えていた。しかし、患者は呼吸困難と下腿浮腫かたいふしゅがあり辛い表情をされていたが、「家で夫と暮らしたいので覚えます」と話され、治療に対して意欲的であった。指導は、何度も患者に練習してもらい、

患者に自信を持ってもらえるように言葉を掛けた。医師や看護師と協力しながら、一回で多くの事を指導せず、少しずつ達成できる喜びを感じてもらえるよう関わっていった。退院時に患者から、「あなたが教えてくれたから頑張ることができました」という言葉を掛けられた。

医療従事者は患者の心理面に気を配り、常に患者のため全力を尽くさなければならぬ。たとえ患者の病気が治っても、患者が生きる意欲を失ってしまったては意味が無く、と考える。私は今回の経験から、臨床工学技士として患者の「どのように生きたいのか」というクオリティ・オブ・ライフを維持する重要性を学んだ。患者は永眠されたが、この経験があったからこそ、私は現在も臨床工学技士という仕事を続けることができている。

今後もこの経験を糧として、患者の気持ちを大切にできる臨床工学技士を目指していきたい。

